

第1回習志野・八千代・船橋地区地域協議会 記録

- 1 日 時 令和5年8月21日（月） 午後2時から3時40分まで
- 2 場 所 千葉工業大学 津田沼キャンパス 5号館6階会議室
- 3 出席者 11名／15名
- 4 概 要

(1) 座長の選出

座長に古賀委員を選出

(2) 地域協議会設置の趣旨

地域協議会設置の趣旨について事務局より説明

【座長】

ただいまの説明について、質問や確認事項があれば是非お願いしたいがいかがか。特になければ、次の議題に移る。

(3) 「県立高校改革推進プラン」及び「第1次実施プログラム」について

資料3「県立高校改革推進プラン及び第1次実施プログラムについて」に基づき、同プラン及び同プログラムの内容について事務局より説明

【座長】

事務局からの「プラン」及び「プログラム」の説明について、質問や資料の確認などあればお願いしたいがいかがか。

私から用語について確認したい。「コース」というのが特色化の中で入っている。「学科」と「コース」の違いは何かご説明していただきたい。

《事務局》

専門学科については、入学の段階でその学科を志願することになる。その学科の教育課程の中で3年間学習し、専門科目を25単位以上履修しなければならないという学習指導要領上の制限がある。

コースについては、普通科や専門学科の中に置くものであり、入学後にコースの希望を取る形になる。また、コースの専門科目は単位数などの制限はなく、実施形態も選択科目の一部とするほか、希望者のみ放課後7限での実施や週休日・長期休業中等に集中講座として実施するなど、学校の実情に応じて柔軟に編成することができる。

【座長】

コースの方が柔軟に設定でき、特色を出しやすいため、対外的なアピールもしやすいということで理解をした。他にいかがか。

【委員】

「観光に関するコース」ではどんな学びをするのか教えていただきたい。

《事務局》

観光に関するコースは県内で初めて設置するもので、令和6年度入学生が2年次からコースを選択することになるため、運用は令和7年度からになる。現在、校内で準備組織を作り計画している段階である。

基本的には商業の科目の一環として、観光ビジネスに関する学びや、おもてなしの精神を学習するようなイメージでコース設置をしたところである。また、設置を予定している一宮商業高校は、以前 SPH（スーパープロフェッショナルハイスクール）の事業に採択されたこともあり、地域との連携をうまく活用し、運用について学校が検討しているところである。

【委員】

承知した。

(4) 習志野・八千代・船橋地区の県立高校の現状と課題

資料4「習志野・八千代・船橋地区地域協議会 基礎資料」に基づき、習志野・八千代・船橋地区の県立高校の現状と課題について事務局より説明

【座長】

事務局から「習志野・八千代・船橋地区の県立高校の現状と課題」について説明していただいた。当地区は基本的に普通科が多く、専門高校が一つもないというのは非常に特徴的である。また、大学進学が増えており、割合として4分の3という説明もあった。これは全国的に言えることで、高度情報化社会や知識基盤社会では良い傾向である。ただ、モラトリアムが伸びており、周りがいくからや、社会に出たくないという理由で高校・大学を目指すという一連の流れが普通科の多いことと関係がある。そこが中継点である高等学校の難しい所でもある。

また、卒業後の進路が多様な学校においては、先生方も生徒指導を含めいろいろな苦勞をされているようである。大学においても現在は多様な学生がおり、同じ大学内でも非常に高い学力を有している学生から、基本的な学力が不足している学生まで様々であるのが現状である。

本日は、現状と今進めている方向の共有が中心になるので、ご確認いただいて質問や資料の確認などあればお願いしたいがいかがか。

(5) 質疑

【座長】

ここまで、所定の議事について進めてきたが、全体を通じて質問があれば何うがいかがか。

【委員】

先ほどコースの説明と質問があったので、コースの様子を説明させていただく。津田沼高校には音楽コースがある。また、吹奏楽部やオーケストラ部、合唱部があり、各部活で定期演奏会を行うなど、「音楽のまち」習志野市の地域の方に音楽の素晴らしさを伝えている。その評判を聞いた中学生が音楽を学びたく入学している。コースの専門科目は2年生からあり、「音楽理論」等の専門性について学び、生徒の意欲も高い。また、音楽の教員が3名おり、きめ細かい指導を行っている。進路先も東京藝術大学や千葉大学など徐々に実績を上げている。コースは学校の特色としてのアピールになっている。一方で、音楽コースを選択する生徒の数は年によって20名～40名とばらつきがあるのは事実である。

【座長】

音楽コースから音楽に関係のない進路選択もあるのか。

【委員】

音楽関係以外の進路希望にも対応できるよう教育課程を工夫しており、生徒は様々な進路選択をしている。

【座長】

特色付けの難しい点は、15歳の生徒の関心と18歳の進路選択とでズレがある。高校3年間でこんな世界があったのかと気が付くこともある。決めすぎることでがんじがらめになることもあり、難しいところである。大学でも色付けしすぎて、先の進路に行き詰ってしまうというケースもある。逆に、色付けすることでモチベーションを高く持ち、一生懸命学び、高校生活を送ることもある。

他にいかがか。

【委員】

県立高校の現状と当地区の状況を説明していただいた。習志野市においては、県立高校は津田沼高校、実籾高校ともに倍率は1倍を超えて推移している。市立高校は市立習志野高校があり、今後人口減少の中でどう存続していくかというのが、議題の1つとして上がっている。

子供の数が減少する中で、県立・市立・私立高校それぞれが子供たちの取り合いになる。県立高校はプランにおいて多様なカリキュラムを用意し、魅力ある県立高校を作っていく話だと思う。市立習志野高校も魅力的なプランを考え、子供たちに進学してもらおうと考えている。

県立高校がどうあるべきか、県立高校の数が適正なのかなどあると思うが、この協議会において、どういった視点で議論をしていったらいいのか。次回の会議で発言しやすくなるという印象があるが、いかがか。

《 事務局 》

1回目はデータも多く、資料も多岐にわたっていた。本日の意義としては、様々な立場の方が一同に会しているため、国の動きから千葉県の動き、そして各学校の詳細についてお示した。人口減少の中で県立高校の在り方として適正規模・適正配置があり、事実として当地区においても適正規模を満たしていない学校もある。郡部では顕著であるが、学校がなくなってしまうと地域が衰退していく。ある学校がなくなってしまった場合、その地域・地区はどうなっていくのか。また、人口が減っていく中で高校の在り方について是非とも議論したい。また、普通科の高校が多い中、こんな学びが必要ではないだろうかという議論もある。今日お示した資料をもとに、次回までに疑問点があればそれをテーマに議論していきたい。テーマの立て方も様々だと思うので、それも含めてこの会議だと考えている。

【 委 員 】

承知した。

(6) その他

【 座 長 】

他になければ次に進む。その他、議事はないか。

(意見なし)

ないようなので、進行を事務局にお返しする。